

施策	5201 生涯学習環境の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	・学校・家庭・地域が連携・協働した教育・ボランティア活動の充実。 ・生涯学習の拠点となる施設の整備充実及び利用促進。							
成果指標	とちぎ未来アシストネット事業による教育効果充実度...5年間で70.0%(現状値62.8%) とちぎ未来アシストネット事業ボランティア交流会参加者数 ...5年間で250人(現状値178人) 社会教育施設利用者数...5年間で832人(現状値782,875人)							
目標達成状況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標 1 [%]	予定	64.20	65.70	67.10	68.60	70.00	
		実績	64.20					
	成果指標 2 [人]	予定	195.00	210.00	225.00	240.00	250.00	
		実績	169.00					
		単位コスト	2,163.89					
	成果指標 3 [人]	予定	793,000.00	803,000.00	812,000.00	822,000.00	832,000.00	
		実績	789,769.00					
		単位コスト	0.46					
	成果指標 4 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	トータルコスト (千円)	予定	364,683	459,848	413,139	0	0	
		実績	365,697	459,848	413,139	0	0	
内部評価	貢献度	上位施策の目標指標「社教施設利用者満足度」を向上させるためには、社教施設への関心や利用者数の向上が必要であるため、本単位施策の目標値達成度による貢献度は高い。						
	達成状況	アシストネット事業教育効果充実度は目標値を上回った。ボランティア交流会参加者数は目標値を約13%下回った。社会教育施設利用者数は目標値を若干下回った。						
	課題	ボランティア交流会については、行政職員と教員の参加者増が課題である。施設については、老朽化が進んでおり、計画的な修繕・再編等が必要である。						
	取組方針	ボランティア交流会については、行政職員、教員の参加しやすい環境整備を行う。施設については、計画的な維持管理を行うとともに、適正配置個別計画の検討を行う。						
外部評価	本市におけるアシストネットの取組は市内外から注目を集めており、取組みは評価に値する。しかし、知名度や理解は十分とは言えず、更なる周知が重要である。スポーツや文化などの他施策との連携も含め、更に充実した取組みを検討されたい。 社会教育施設については、老朽化による修繕を求める声もあり、施設の統廃合による合理化など利用しやすい環境づくりを期待したい。							
単位施策達成のための事務事業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	562301	太平少年自然の家敷地賃借費				2,197	100	
	562401	社会教育関係団体補助金（栃木）				515	100	
	562402	社会教育関係団体補助金（大平）				2,456	100	
	562403	社会教育関係団体補助金（藤岡）				1,257	100	
	562404	社会教育関係団体補助金（都賀）				930	100	
	562405	社会教育関係団体補助金（西方）				810	100	
	562406	社会教育関係団体補助金（岩舟）				830	100	
	562501	コミュニティ施設管理費				12,562	100	
	562601	コミュニティ推進協議会補助金				1,175	100	
563101	栃木公民館管理運営費				25,477	100		

[illegible]

単位施策評価表 補表

施策	5201 生涯学習環境の充実		
区分	妥当性	妥当	社会教育法第5条に位置づけられている事務のため、市で行うことは妥当である。
	コスト削減の余地	無	本施策においては、社会教育施設の維持管理費が多くを占めているため、コスト削減は難しい。
	受益者負担	適正	使用料等の見直しについては、財政課主導の下、適宜行っていることから適正である。
	上位貢献度	有効	個々の事務事業の推進による貢献度が高いことから、単位施策貢献度が高いと判断した。
	類似事業の有無	無	
	成果向上の余地	有	施設の老朽化が進んでおり、適切な修繕により成果向上の余地があると判断した。
内部評価	貢献度	上位施策の指標「社会教育施設利用者満足度」を向上させるためには、社会教育施設の充実や利用向上のための個々の事務事業の推進は貢献度が高いと判断した。	
	達成状況	とちぎ未来アシストネット事業による教育効果充実度については、目標値を上回っており、学校現場における教育効果は十分成果を上げていると思われる。 ボランティア交流会は、会場の関係からも目標値の達成は難しいが、継続・発展段階となりつつあるアシストネット事業にとって、重要な交流・情報交換の場となっている。 施設に関しては、利用者が若干減となっており、施設の老朽化に伴う不具合の発生が影響している可能性もある。	
	課題	とちぎ未来アシストネット事業については、年々成果を上げており、継続・発展段階となりつつある。 ボランティア交流会は公民館担当者、学校教員の参加者増が課題。 施設に関しては、老朽化が進んでおり、計画的な修繕・再編等を行う必要がある。	
	取組方針	アシストネット事業については、課題を抽出し、その解消に向けて、地域間での情報の共有、連携により効率的効果的な事業の推進を行う。 ボランティア交流会は、公民館担当者、学校教員が出席しやすい環境を整備していく。 施設については、引き続き計画的な修繕を行うとともに、公共施設の再編計画との整合性を図っての適正配置個別計画を検討していく。	